

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 工原 No.22 補講【最適セールスマックス】

収録日：平成 25 年 10 月 8 日

【出題実績】

日商簿記 1 級 123 回原価計算

全経簿記上級 170 回原価計算

	検定簿記講義	サク	スッキリ	教科書
ページ数	3	22	14	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い
（「弱い」は「ない」を含みます）

このレジュメと解説で論点押さえ、日商 1 級 1 2 3 回の問 3 以外と、全経上級の 170 回が対応できれば十分と考えて下さい。

複数製品のCVP分析

<例>

CMCは、簿記シリーズの書籍と弥生シリーズの書籍を出版・販売しており、その売上割合（セールスマックス）は3冊：2冊で安定している。

	販売単価	貢献利益
簿記講座	900円	180円
弥生シリーズ	600円	300円

全体の固定費は570,000円である

1. 各製品の販売量を一定と考えて損益分岐点の売上高を計算しなさい

$$180 \times 3 + 300 \times 2 = 1,140 \text{ 円}$$

$$570,000 \div 1,140 = 500$$

500セット販売でトントン

簿記講座	900円×3冊×500セット=1,350,000
弥生シリーズ	300円×2冊×500セット=300,000
損益分岐点売上高	1,650,000円

2. 各製品の売上高の割合を一定と考えて損益分岐点の売上高を計算しなさい

簿記講座の貢献利益率	0.2
弥生シリーズの貢献利益率	0.5

$$\text{加重平均貢献利益率} \quad 0.2 \times 3/5 + 0.5 \times 2/5 = 0.32$$

（思い出しましょう。単純平均は重みが同じ。このケースなら $0.2 \times 1/2 + 0.5 \times 1/2 = 0.35$ ）

$$\text{損益分岐点売上高} \quad 5,700,000 \div 0.32 = 1,781,250 \text{ 円 (固定費} \div \text{貢献利益率)}$$

LP（線型計画法）

全経上級 170 回を利用して説明します

制約条件（各機械に上限値がある）を考慮して、1 時間あたりの貢献利益の多い方で最大需要量の製品をつくり、遊休時間で他の製品を製作するのが業務執行的意思決定の考え方でした。

でも、この問題では制約条件が機械によって違います。
この場合は連立方程式を解いて計算します。

本来はグラフ作成必要ですが、試験では連立方程式解ければ対応可能です。

	X	Y
貢献利益	1,750	1,050
A 機械 1 時間あたり貢献利益	875	1,050
B 機械 1 時間あたり貢献利益	875	350

X を x 個、Y を y 個つくった時の貢献利益を最大とする

A 機械について $2x + y = 1,500$ （時間）

B 機械について $2x + 3y = 2,100$ （時間）

これを解くと、 $y = 300$ $x = 600$ となる

この問題には需要の上限が書かれてません。

日商 1 級 123 回の原価計算では需要の上限が書かれています。解き方は同じです。
最後の問題（問 3）は埋没問題と考えて下さい